

五郎沼通信



第14号 平成28年11月1日発行

この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。

(発行部数:200部)

発行者:「五郎沼の桜を守る会」

事務局 瀬川峰雄

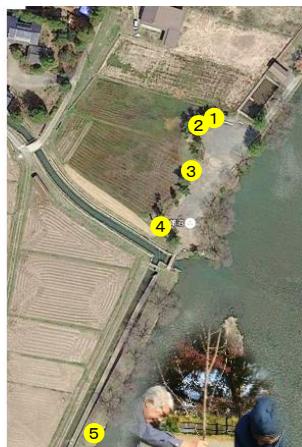
紫波町南日詰字小路口70-1

電話:019-672-2656 (FAX兼用)

携帯:090-2270-6771

m-mail:segawa@mineo.jp

Pcmail:shiwajokaso@crest.ocn.ne.jp



10月30日、五郎沼の堤体の環境整備を一斉に今回、箱清水地区団体の史跡五郎沼愛護会のボランティア行いました。駐車場の松枯れ被害木がまだあつたので伐採した後と、桜の間隔が広すぎる場所に、ソメイヨシノを10本(左図の①)~⑩の場所)植樹しました。

また、西側堤体のために弱っている桜へは、なんとか寿命を延ばして頂きたいと祈り、例年通り堆肥も入れました。そして、蓮池から古代

ハス根茎が西隣の田んぼに数年前より侵入して雑草の中ではあります。わずかに可憐な花を咲かしてしまったので、五郎沼古代ハスが全滅にならないよう、もう一つの蓮池準備をしました。

今回、古代ハスを永遠に残していくため所有者

さんより快くご理解を得て現在の蓮池と同等くら

底なし沼地なため手作業での雑草取りでしたが、

が全体に広がり、そして現在の広さで増殖するための整備でした。古代ハス

東側の「五郎沼」看板が台風10号時に倒れました。

原因はシロアリでしたが、

地元の業者さん、ボランティアさんで造り、同じ

ところにシロアリ駆除後に設置しました。

五郎沼の桜植樹と蓮池などの環境整備をしました

蓮池の西隣の蓮池予定地

蓮池の西隣の蓮池予定地

松枯れ被害木の伐採

新設「五郎沼」看板

台風被害の旧看板



濃紅色の桜

…深みのある紅色、紺色、紅紫色



河津桜(カワツザクラ)

花形: 一重咲

花色: 紺紅

花の大きさ: 大輪

開花期: 3月上旬

原木は伊豆半島の河津町にある。河津町では、増殖して川沿いに多く植えたものが温暖な気候により2月下旬から1ヶ月以上にわたり開花し、観光名所となっている。

寒緋桜(カンヒザクラ)

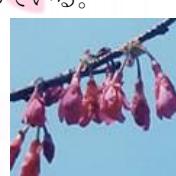
花形: 一重咲

花色: 紺紅

花の大きさ: 中輪

開花期: 3月中旬

中国南部、台湾に分布し、沖縄の石垣島、久米島でも見られる。寒い頃から濃紅色の花を咲かせることからこの名がつけられた。別名緋寒桜ともいう。



長洲紺桜(チョウシュウヒザクラ)

花形: 半八重咲

花色: 紺紅

花の大きさ: 中輪

開花期: 4月上旬

満開期の短い深い紅色の花。



紫桜(ムラサキザクラ)

花形: 一重咲

花色: 紺紅

花の大きさ: 中輪

開花期: 4月中旬

小石川植物園で大木となった本種を見ることができる。



紅豊(ベニユタカ)

花形: 八重咲

花色: 濃紅

花の大きさ: 大

開花期: 4月中

紅色豊かな重弁のサクラとなつたことから命名された。



中尊寺ハスと秀衡街道

中尊寺の株分け平成14年5月28日の五郎沼より数週間前だった、多聞院伊澤家（たもんいんいざわけ）を訪問してきました。

○池の側にある案内板より

北上市和賀町山口から秋田県平鹿郡山内付にかけて、「秀衡街道」という古道が残っています。この古道は、平安時代末期に東北地方を治めた平泉藤原氏の第三代秀衡と、平泉の黄金文化にちなんで名付けられたと言われています。



秀衡街道は、平泉から奥羽山脈寄りに北に進み、和賀町山口から和賀川南岸を西に向かい、仙人峠を越え、湯川町から県境を通って山内村、そして横手市へと続いていました。

仙人峠にある仙人権現社（久那斗（くなと）神社奥宮）は、秀衡が祖先の靈を久那

斗権現としてまつたものと伝えられ、多聞院伊澤家は仙人権現社の別当を務めていました。伊澤家住宅の北にある久那斗神社はその里宮として天文3（1534）年に建てられました。

また、山内村役（いかだ）の仙人社は、正中2（1325）年に仙人峠の仙人権現社から分社したと伝えられています。このように、奥羽山脈をはさんで秀衡街道の西と東には、同じ神がまつられています。この神に街道を往来する人たちの安全を守っていました。

岩手県と秋田県を結ぶこの秀衡街道を母体として、明治15（1882）年新たに平和街道が開通しました。平和街道開通120周年の年の平成14（2002）年5月10日に中尊寺ハスを株分けしたことです。



◎多聞院伊澤家（国の重要文化財）

江戸時代のこの地方の一般民家の形態（内廻式直ご家・うちまやしきすごや）を残しながらも、一般住宅の上手座敷に社寺建築特有の虹梁（こうりょう）※大瓶束（たいへいつか）などを配し、柱も一部に円柱を用いるなど、道場空間への演出に意をそそぎ、江戸時代における山伏住宅の実体が殆ど分からず現在、修験道場をうちに含んだ住宅例として、また、周辺民家との住宅形式の関係をみることのできる例として建築史上、文化史上、貴重な遺構として平成2年9月、国の重要文化財の指定を受けたものです。



※虹梁=虹形に上にそり返った梁（はり）、社寺建築で使う。大瓶束=瓶子（へいじ・酒などを入れる細長く口の狭い）形の束

五郎沼のほどりに無量光院のような寺院があつた？

昨年、岩手県立博物館（現在は岩手県立埋蔵文化財センター）の羽柴さんを中心にして、五郎沼周辺の精密測量調査を行いました。その結果、図のように比爪館想定図が出来ました。

赤石小学校の場所が、政府跡、庭園跡が居館跡、それ以外の場所に大莊厳院などの寺院空間が想定されました。特に西側、薬師神社付近には無量光院（平等院鳳凰堂と同じような建物）跡と同じような地形が見られました。発掘調査をしなければ、正確なことは証明されませんが、ロマンを感じさせる結果です。このように館を拠点とした比爪藤原一族とは、平泉に匹敵する大きな権力を持つていたのではないかと想像されます。（石幡談）

比爪藤原氏の時代（2）



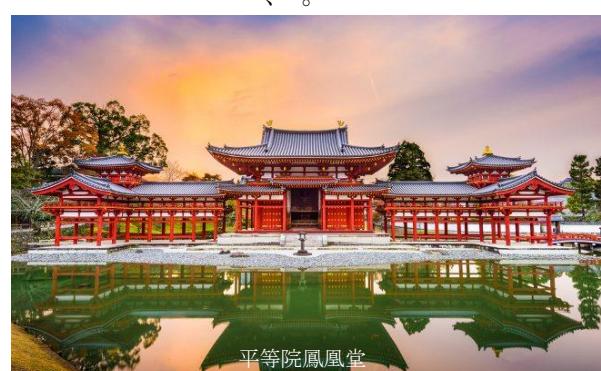
比爪館について 2015-6-14 羽柴直人

～編集後記～

桜の時期の4月は町内でも五郎沼は癒しのスポットであります。今回の五郎沼通信では、ボランティアのおかげで弱りきっている桜を、擁護しながらも、新しい桜（ソメイヨシノ）の植樹がメイン記事とやつとなりました。

今後も前から話している西側堤体の衰退している桜を大事になんとか、復活して頂けるように、また、植樹した桜を大事に育てることに日々、努力していくようにしてゆきます。

ぜひ会員さんも五郎沼に桜を励ましに来ていただければ大変ありがたいです。



平等院鳳凰堂